

# 令和4年度 学校評価シート

第1回内部評価委員会: 令和4年6月23日(木)

第1回外部評価委員会: 令和4年7月 6日(水)

教育方針	農業県・宮崎における実践農業の教育機関として、校訓「自律・創造・協調」を基調とした教育により、将来、本県の農業を担う人材を育成する。
------	--



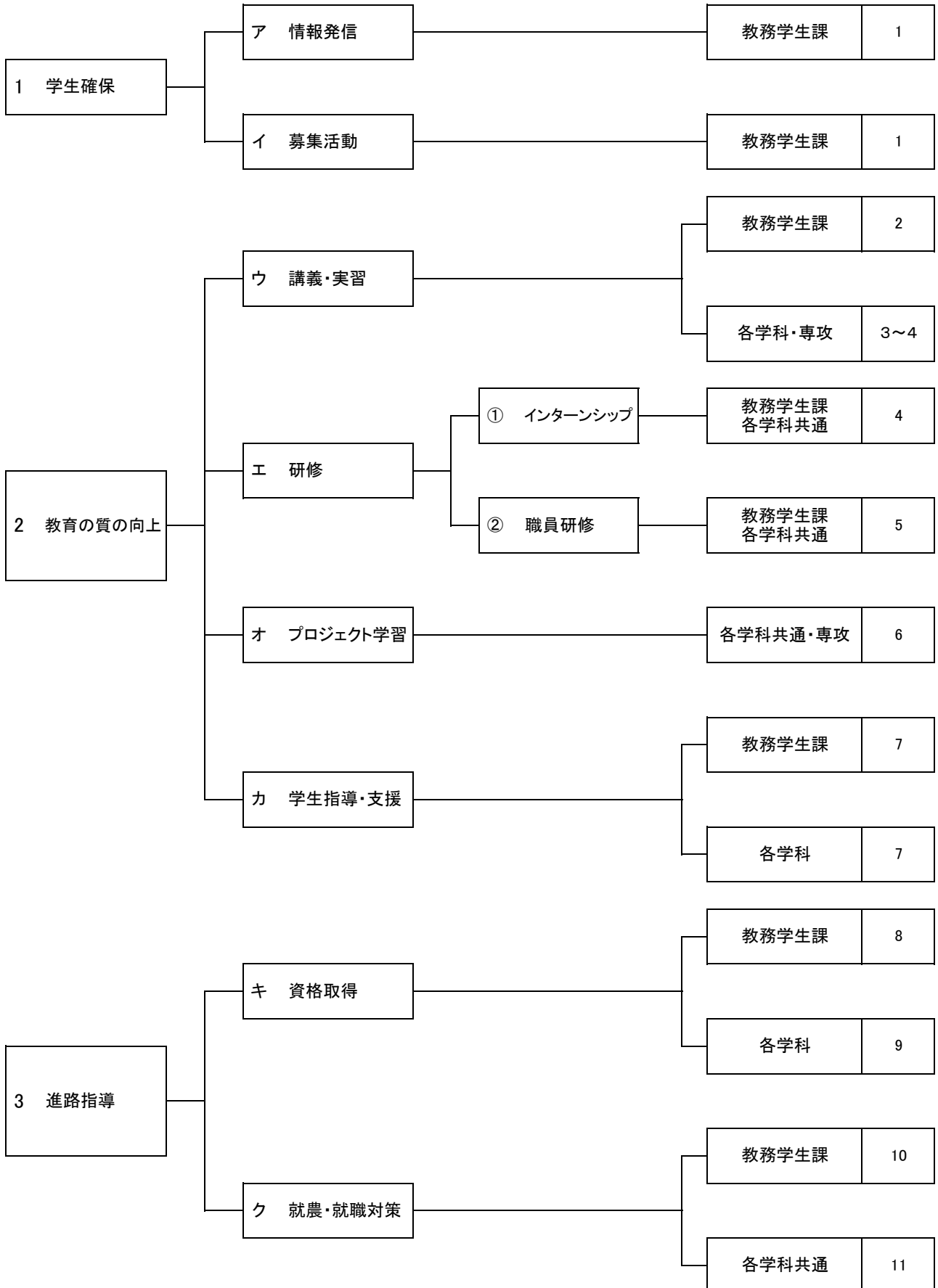
学校の教育目標	①「生産する力(生産技術)」を育む。 ○講義、演習、農場実習で「生産する力」の定着を図る。 ○インターンシップ、自主企画研修等の校外学習で「生産する力」の向上を図る。
	②「経営する力(経営スキル)」を育む。 ○農業経営科目の講義や農場実習で「経営する力」の定着を図る。 ○校外学習や『学生出資会社』で「経営する力」の向上を図る。
	③「課題を解決する力(課題を見つけ計画的な取組で解決する力)」を育む。 ○専攻実習における『プロジェクト学習』で「課題を解決する力」の定着を図る。 ○『地域連携型プロジェクト学習』で「課題を解決する力」の向上を図る。 ※高校、農家・農業法人、関係機関等とのコンソーシアム方式による連携・共同プロジェクト学習
	④社会性を育む。 ○農家・農業法人における研修、企業連携新商品開発、流通・販売学習を通し、地域社会において積極的に活動し、「ネットワークを構築する力」の定着を図る。 ○『地域連携型プロジェクト学習』を通して「社会で活躍する力」の向上を図る。 ○学生自治会活動や寮生活を通して「コミュニケーション力」や「協調性」の向上を図る。



各学科が育成する人材像	農学科	畜産学科
	本県で主に栽培されている品目を教材に取り上げ、その特徴や栽培技術、商品化技術、農産物の加工・販売についての実践学習を通して、高度な生産技術と経営スキルを身につけ、将来、本県農業に夢を持って意欲的に取り組む人材を育成する。	本県で主に飼育されている畜種を教材に取り上げ、その特徴や飼育管理・繁殖管理・肥育管理技術、出荷の方法、畜産物の加工・販売についての実践学習を通して、高度な生産技術と経営スキルを身につけ、将来、本県畜産業に夢を持って意欲的に取り組む人材を育成する。
	フードビジネス専攻	
	農産物・畜産物を利用し、消費者に安全で高品質の製品を提供するため、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理、食品加工技術の向上、食品関連産業との連携による新商品開発力、学生出資会社の運営による流通・販売に至るまでの学習を通して、将来、本県のフードビジネスに幅広く対応できる柔軟な発想力とスキルを身に付けた人材を育成する。	

(宮崎県立農業大学校)

## 評価項目の構成



評価項目	担当	令和3年度の目標	令和3年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和3年度評価		令和4年度目標達成のための取組 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部		
情報発信	教務学生課	①きめ細かなマスコミへの情報提供や学校HP・SNSを活用したリアルタイムな情報発信 ②県内農業高校等及び就職先となる農業法人や農業関連企業・団体への教育成果や学校行事の情報提供	取組 ①について ・職員のSNSリテラシーの向上研修の実施 ・担当職員のFacebook や Instagram 等のSNSへの投稿に関する研修を行い、定期的な情報発信を行う体制整備 ・ひなたMAFiNホームページの定期的な更新(☆) ②について ・SAP地区大会での学生プロジェクト発表や県冬季大会への参画 ・県内農業高校生等も参画できる開放型講座・研修の計画的な開催			【A】	【A】	目標 ①きめ細かなマスコミへの情報提供や学校HP・SNSを活用したリアルタイムな情報発信 ②県内農業高校等及び就職先となる農業法人や農業関連企業・団体への教育成果や学校行事の情報提供
			成果 ①について ・行事ごとにFacebookと公式Instagramを開設し同時に同記事をアップした。行事ごとに更新を実施することでFacebookのフォロワー数2,038名 投稿数40、公式Instagramのフォロワー数100名投稿数21となり情報発信源になった。 ・ひなたMAFiNについては情報掲載方法が煩瑣で活用に至らなかった。来年度に取り組みたい。 ②について ・校内プロジェクト・九州プロジェクト大会において、ZOOMにより遠隔情報配信及び運営を実施することで、コロナ禍でも対外行事を実施し学びを進めることができた。 ・都城農業高校と本校をZOOMで繋ぎ説明会を実施することで新しい形のオープンキャンパスを実施し効果をあげられた。 ・SAP県大会は中止となった。 ③その他 ・校内独自の光回線を敷設することで、遠隔授業に対してスムーズな情報配信ができるようになった。その施設を用いて、遠隔授業を実際に行うことができた。					取組 ①職員の情報発信力の向上によるSNSの活用の推進 ・こまめに情報をアップすることに努め、年間110回の更新 ・更新する人数の増員(現在更新できる職員は2名のみ) ・ホームページやInstagramとの連携(アグリカレッジひなた・本校インスタ) ・電子掲示板や掲示板を活用し、掲示情報の充実 ・メールでの発信やTeamsを活用した、情報共有による業務の効率化 ②6月に行われる就職相談会を活用した学生と大規模農業者・企業間の双方の就職情報の共有 ・学生が活動する行事での丁寧な事前事後指導による本校の教育力の発信の充実 ・宮崎県農業法人協会・高鍋町ハローワークとの密な連携による情報発信の充実
学生確保	教務学生課	①農業系の高校生や高等学校教諭等にインパクトのある学校紹介の展開 ②農業系以外的高校生や高等学校教諭等に、4年制大学や日本農業経営者大学校への進学ができる専修学校であることの周知	取組 ①・②共通 ・本校管理職、教職員による県内高校訪問 ・高校生向け進路ガイダンスの開催 ・高鍋農業高校と連携した中学生へのオープンキャンパス ・リーフレットの刷新及び学校紹介グッズの作成、配布 ・新しい修学支援制度の対象校であることのPR ①について ・オープンキャンパスや合宿型アグリドリームキャンプの開催 ・高校の担当教諭との意見交換・相互授業参観の実施 ・高大連携でのプロジェクト活動やスマート農業関連講座の充実 ②について ・農業系以外的高校生及び一般県民向け総合パンフの作成			【A】	【A】	目標 ①農業系的高校生や高等学校教諭等にインパクトのある学校紹介の展開 ②農業系以外的高校生や高等学校教諭等に、農大の教育内容、4年制大学進学が可能な専修学校であることの周知
			成果 ①について ・計画的に高校訪問をすることで、高校生数が減少のなか昨年並の入学予定者を確保できた。 ・アグリドリームキャンプは新型コロナの影響により1日の開催になったが、県内企業やSAPの協力のもと実施し成果を上げられた。(農大進学を考えるか52%→73%、研修に「おおいに満足」と「満足」で100%) ・農業系高校別オープンキャンパスや先生との交流は、新型コロナウイルスの拡大により中止した会もあったが、高校ごとのニーズに合わせたプログラムを実施することでそれぞれの高校に農大進学希望者の芽を出させることができた。 ・進路ガイダンス用に、動画を作成することで農大の魅力をわかりやすく伝えることができるようになり説明会の充実が図れた。 ・ドローンプロモーションビデオの作成(Facebookに掲示)や、大型特殊免許取得のための教材動画を作成しホームページに掲載することでデジタル化を進め学校のPRにもつなげられた。 ・リーフレットはページを増やし資格・進路・キャンパスライフの情報を入れることでより情報を伝えやすくてきた。次年度は増刷とパンフを計画したい。 ・高鍋農業高校との連携による授業、研修などを実施することで学生や高校生の学習意欲を高め専門学習の深化が図れた。 ②について ・志願者総数65名中、農業系高校以外の志願者が19名で、志願者の幅が広がっている。 ・日本農業経営者大学校については情報提供を行った。					取組 ①について ・「農業のスマート農業化」「農業散布用ドローンオペレーターの教育施設」等の特色のオープンキャンパス、進路ガイダンス等でのPRの推進。 ②について ・農業系高校以外的高校でのPR活動の推進

評価項目	担当	令和3年度の目標	令和3年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和3年度評価		令和4年度目標達成のための取組 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部		
教育の質の向上	講義・実習	教務学生課 ①本校教職員の指導力向上による教育内容の充実 ②学校教育法が求める専修学校としてふさわしい教育環境の充実	取組	①について ・知事部局職員に対する研究授業の実施 ・外部講師授業の充て職の見直し ・学生の多様性を理解するための研修会の開催 ②について ・論理的な思考力を育てる基礎教養講座や学科横断プロジェクトの創設 ・グローバルな視点を支える英会話講座の新設・充実 ・関係機関と連携した6次産業化教育の充実 ・スマート農業に対応できる農場施設の整備			目標	①本校教職員の指導力向上による教育内容の充実 ②学校教育法が求める専修学校としてふさわしい教育環境の充実 ③学生が学びやすい施設設備の充実
			成果	①について ・県教育研修センターの指導主事を講師に、特別支援の理論、支援が必要な学生への対応法等に関する研修会を実施し、職員の指導力向上を図ることができた。 ・高校訪問時に高校の座学の授業参観をさせていただくことで、高校の授業のレベル、指導の工夫特にITの活用の必要性を理解してもらった。その後、ZOOMを活用した遠隔授業の研修を実施し効果を上げられた。 ・外部講師の充て職については解消できなかった。次年度以降も解消に努める。 ②について ・英会話授業を1年生・2年生に実施し、海外研修で利用できるスキルを身につけることができるようカリキュラム調整を行った。 ・本年度本校化して、初めて農業散布用ドローンの資格を学生4名に取得させることができた。	[A]	[B]	取組	①について ・全職員の安心安全メールの活用修得による、学生へ連絡できる体制作り ・ICT活用(情報機端末・ZOOM)を活用した授業力向上の研修の実施 ・学生理解の深化による指導力向上研修の実施 ・ZOOMを用いた遠隔授業を活用した授業方法の研究 ②について ・令和5年度入学生のカリキュラムの第2四半期まで決定 ・次年度の外部講師の第4四半期初期までの決定 ・エクセルでの学生情報の一元化と活用のためのルール構築 ③について ・寮のWifi機能強化による学生のタブレットPCを活用した学習環境の整備 ・学生に貸与した情報端末の有効活用の検討

評価項目	担当	令和3年度の目標	令和3年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和3年度評価		令和4年度目標達成のための取組 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)
			内部	外部	内部	外部	
教育の質の向上	講義・実習	<p>農学科</p> <p>①講義や実習及びプロジェクト活動の効率的実施による、各専攻毎の基本的な作物栽培技術と経営スキルの習得</p> <p>②「ひなたGAP」や「ASIAGAP」などGAP実践による適正な農場管理手法の習得</p> <p>③スマート農業への対応、農業機械並びに複合環境制御装置を導入した園芸ハウスを活用した先進的な農業技術の習得</p>	<p>目標</p> <p>①・②共通 ・安心で安全な農産物を生産するため、農場長、各部長を中心とした自主的な農場運営の実施</p> <p>①について ・県内の先進的な農業経営体での事例研究など校外での学習カリキュラムの実施 ・実践的な販売力を身につけるため、「アグリカレッジひなた」との連携による地域イベントへの積極的な参加</p> <p>②について ・作物専攻・・・ひなたGAP更新審査合格に向けた、基準書実践、自己点検 ・野菜専攻・・・ひなたGAP維持審査及びASIAGAP更新審査合格に向けた、基準書やマニュアルの実践、自己点検 ・果樹専攻・・・ひなたGAP維持審査合格に向けた、基準書実践、自己点検</p> <p>③について ・関連企業・大学等と連携した講義【スマート農業基礎】(1年生)、【スマート農業活用】(2年生)及び機械操作実習の実施</p>			<p>目標</p> <p>①講義や実習及びプロジェクト活動の効率的実施による、各専攻毎の基本的な作物栽培技術と経営スキルの習得</p> <p>②「ひなたGAP」や「ASIAGAP」などGAP実践による適正な農場管理手法の習得</p> <p>③スマート農業への対応やドローン、複合環境制御装置を導入した園芸ハウスを活用した先進的な農業技術の習得(☆)</p>	
			<p>成果</p> <p>①について ・農場長や各専攻の生産部長を中心に学生自らが農場運営に取り組むとともに、GAPの実践により安心で安全な農産物を生産、販売を行い、固定客もあり好評であった。 ・先進経営体での事例研究や、「アグリカレッジひなた」との連携による地域イベントは実施できていない。</p> <p>②について ・作物専攻：ひなたGAP更新審査受検(米・小麦 7/28)指摘事項改善報告を行い合格。(R6 2/29まで認証) ・野菜専攻：ASIAGAP更新審査受検(7品目：ミニトマト、きゅうり、いちご、大玉トマト、なす、メロン、すいか 11/29)改善事項改善報告を行い合格。(R6 1/23まで認証)</p> <p>③について ・1年生を対象に、宮崎大学及び本校職員、関連企業3社の講師による講義「スマート農業基礎」を実施し、基本的な知識を習得した。 ・2年生は、総合農試ひ農業者、関連企業3社の講師による講義「スマート農業活用」を実施し、本校に導入している複合環境制御システム活用について理解が深まった。 ・また、作物専攻では、昨年度導入した直進アシスト機能装備のトラクターや田植機、などの機械操作実習を実施し、操作技術が向上した。</p>	[A]	[A]	<p>取組</p> <p>①について ・安全安心な農産物を生産するため、農場長、各部長を中心とした自主的な農場運営の実施 ・県内の先進的な農業経営体での事例研究など校外学習の実施 ・実践的な販売力を身につけるため、「アグリカレッジひなた」との連携による地域イベントへの積極的な参加</p> <p>②について ・作物専攻・・・ひなたGAP維持審査合格に向けた自己点検や工程管理 ・野菜専攻・・・ASIAGAPの更新審査、ひなたGAPの維持審査に向けた工程管理 ・果樹専攻・・・ASIAGAPの新規認証取得(マンゴー)(☆)及びひなたGAP維持審査合格に向けた自己点検や工程管理</p> <p>③について ・関連企業や大学等と連携した講義【スマート農業基礎】(1年生)、【スマート農業活用】(2年生)の実施 ・省力化に向けたドローンの活用(水稲、麦、露地野菜、露地みかん等)☆</p>	
		<p>畜産学科</p> <p>①畜産を担うための生産技術及び経営スキルの習得</p> <p>②GAPの実践による適正な農場管理手法の習得と農場生産性の向上による実習意欲の向上</p> <p>③ICTを活用した先進的なスマート農業技術の取得</p>	<p>取組</p> <p>①について ・関係団体、畜産関係企業、畜産法人等と連携した実践的な講義、研修、校外学習の実施</p> <p>②について ・酪農・肉用牛専攻におけるJGAP家畜・畜産物の認証取得 ・講義や校外学習、実習によるGAPの取り組み指導及び取り組み徹底</p> <p>③について ・企業や大学、法人と連携したICTの講義、スマート農業基礎【1年生】、スマート農業活用【2年生】の実施 ・ICT機器や環境制御型牛舎を活用したデータに基づく実習の実施</p>			<p>目標</p> <p>①畜産を担うための生産技術及び経営スキルの習得</p> <p>②GAPの実践による適正な農場管理手法の習得と農場生産性の向上による実習意欲の向上</p> <p>③ICTを活用した先進的なスマート農業技術の取得</p>	
			<p>成果</p> <p>①について ・大学や畜産関係団体と連携した講義・実習を行い、家畜人工授精資格(15名)、家畜体内受精卵移植資格(7名)、削蹄師資格(14名)の資格取得とともに生産技術の習得が図られた。 ・畜産法人等の講義や事例研究を実施し、本校では接することのできない新たな実践的な生産技術や経営スキルを習得することができた。</p> <p>②について ・乳用牛・生乳、肉用牛において、県内教育機関では2番目のJGAP家畜・畜産物認証を取得した。(12月1日)</p> <p>・外部講師による講義やGAP実践農場の視察、また、GAPに基づく日々の実習を実施し、就農後GAPを行いたいという学生がでるなど、GAPに対する意識の向上が図られた。</p> <p>③について ・畜産のICT関連企業等(9者)と連携した講義や新たな牛の行動監視システム、環境監視システムの導入により、スマート農業の技術の習得が図られた。</p>	[A]	[A]	<p>取組</p> <p>①について ・関係団体、畜産関係企業、畜産法人等と連携した実践的な講義、研修、校外学習の実施</p> <p>②について ・酪農・肉用牛専攻におけるJGAP家畜・畜産物の認証取得 ・講義や校外学習、実習によるGAPの取り組み指導及び取り組み徹底</p> <p>③について ・企業や大学、法人と連携したICTの講義、スマート農業基礎【1年生】、スマート農業活用【2年生】の実施 ・ICT機器や環境制御型牛舎を活用したデータに基づく実習の実施</p>	



評価項目	担当	令和3年度の目標	令和3年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和3年度評価		令和4年度目標達成のための取組 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部		
講義・実習	フードビジネス専攻	○食品加工から流通・販売までのフードビジネスに幅広く対応できるスキルの修得	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食品衛生法」や「食品表示法」等の知識を習得するため、食品製造関係の資格取得を目指した講義の実施</li> <li>食品の機能性、食品の成分分析方法など、食品に関する知識を深めるため、南九州大学と連携した専門的な講義の実施</li> <li>商品開発の過程における官能評価法について、最新設備を備えた食品開発センターにおける実習</li> <li>一般社団法人【みやPEC】と連携した食品コンテストへの出展に係る講義実習</li> <li>HACCPの考え方を取り入れた衛生管理法について専門家を招聘した授業の実施</li> </ul>			目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①食品加工から流通・販売までのフードビジネスに幅広く対応できるスキルの修得</li> <li>②原材料となる農畜産物の生産に関わる基礎知識の修得(☆)</li> </ul>
			取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品表示に関する資格取得を目指し、オンデマンド講座を実施したことで、受検した1年生9名、2年生1名のうち、1年生3名が合格し知識の習得につながった。</li> <li>南九州大学と連携し、「食品の機能性」「食品化学」についての講義を1年生9名に実施したことで、食品実験に関する基礎知識の修得や実験器具の扱いについて身につけることができた。</li> <li>食品開発センター「おいしさリサーチラボ」にて、商品開発における官能評価法に関する研修を実施したことで、味覚の重要性を認識し官能評価の手法を学ぶことができた。</li> <li>「新商品開発」の授業において、【みやPEC】が主催する「スイーツプロジェクト」(県内高校、大学、専門学校が対象)に参加したことで、宮崎の農産物を使った新たなスイーツの研究に取り組むことができ、また2年生2名が優秀賞を受賞し商品開発能力の向上のアピールにつながった。(応募数156点)</li> <li>県内企業においてHACCP指導を行う講師を招いて、食品衛生管理に関する講義を実施したことで、HACCPに関する知識が深まり、食品関連企業等での即戦力を身に付けることができた。</li> </ul>	[A]	[A]		<ul style="list-style-type: none"> <li>①について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>「食品衛生法」や「食品表示法」等の知識を習得するため、食品製造関係の資格取得を目指した講義の実施</li> <li>食品の機能性、食品の成分分析方法など、食品に関する知識を深めるため、南九州大学と連携した専門的な講義の実施(☆)</li> <li>商品開発の過程における官能評価法について、専門講師により講義の実施(☆)</li> <li>HACCPの考え方を取り入れた衛生管理法について専門家を招聘した授業の実施</li> </ul> </li> <li>②について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>県内で生産され加工に用いられる代表的な農産物である、葉菜、根菜、イモ類等の生産実習の実施。</li> <li>販売を見据えた生産計画を意識した実習の実施(☆)</li> </ul> </li> </ul>
教育の質の向上	研修(インターンシップ)	【学科共通】 ①学生のコミュニケーション能力や実践力を高めるためのインターンシップや自主企画研修の実施 ②研修効果を更に高めるための受入先との連携強化	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>【学科共通】</li> <li>①・②共通                             <ul style="list-style-type: none"> <li>研修受入れ可能な農業法人などの研修先情報収集と蓄積</li> <li>学生進路等に配慮した研修先の選定指導</li> <li>研修先選定の参考とするための個別面談の実施</li> <li>自主企画研修実施計画作成指導など研修決定までの事前研修強化</li> </ul> </li> <li>②について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>研修先の巡回による研修態度の確認</li> </ul> </li> </ul>			目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>【学科共通】</li> <li>①学生のコミュニケーション能力や実践力を高めるためのインターンシップや自主企画研修の実施</li> <li>②研修効果を更に高めるための受入先との連携強化</li> </ul>
			成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>【教務学生課】</li> <li>①について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ研修は新型コロナウイルス拡大と重なり十分に計画通り実施できなかった。代替研修や期間短縮等の工夫で対応した。</li> <li>自主企画研修については、計画通りに実施することができた。</li> </ul> </li> <li>【農学科】</li> <li>自主企画研修のみ計画どおり実施</li> <li>①・②について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>今までの研修受入農家のデータ蓄積や協力により研修先を速やかに決定することができた。                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>※1年生自主企画研修(受入農業法人等 21経営体)</li> </ul> </li> <li>個人面談による進路希望を把握し、研修先決定に活用した。</li> <li>専攻担任による自主企画研修計画作成指導を実施し、1年生全員が自分で研修先を決定することができた。</li> </ul> </li> <li>②について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻担任による研修先巡回指導を実施し、研修先からは非常に頑張っているとの声が多かった。                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>※受入先の総合評価:4.5(5点満点)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>【畜産学科】</li> <li>①・②について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から研修受入農場との情報共有を行うことで研修先を速やかに決定することができた。</li> <li>自主企画研修(16経営体)</li> <li>研修先が卒業後の就職に結びつく学生もいた。</li> <li>自主企画研修計画作成指導を実施し、事前研修強化を図り、研修先の巡回では、研修先より非常に頑張っているとの多くの声を聞くことができた。</li> </ul> </li> <li>【フードビジネス専攻】</li> <li>①・②について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>個人面談により学生の進路希望を十分に聞き取り、将来につながる研修先を自ら探し、打診するよう指導したことで、自身で決定し充実した研修を行えた。 ※1年生自主企画研修(6事業所)</li> </ul> </li> <li>②について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻担任による研修先巡回指導を実施したことで、学生の意欲的な研修態度を把握でき、継続した研修受入れの足掛かりとなった。</li> </ul> </li> </ul>	[A]	[A]		<ul style="list-style-type: none"> <li>【学科共通】</li> <li>①・②共通                             <ul style="list-style-type: none"> <li>研修受入れ可能な農業法人などの研修先情報収集と蓄積</li> <li>学生進路等に配慮した研修先の選定指導</li> <li>研修先選定の参考とするための個別面談の実施</li> <li>自主企画研修実施計画作成指導など研修決定までの事前研修強化</li> </ul> </li> <li>②について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>研修先の巡回による研修態度の確認</li> </ul> </li> </ul>

評価項目	担当	令和3年度の目標	令和3年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和3年度評価		令和4年度目標達成のための取組 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)		
			内部	外部	内部	外部			
教育の質の向上	研修(職員研修)	教務学生課 各学科共通	<p>令和3年度の目標</p> <p>①授業力及び学生指導力の向上</p> <p>②担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上</p>	取組	<p>①・②共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学生による授業評価」による授業実態の把握と改善(☆)</li> <li>宮崎県高等学校農業教育研究会への参画</li> </ul> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育担当副校長等が実施する指導力向上研修会の開催(年3回)</li> <li>教務学生課が実施する情報処理技術研修会の開催(EXCEL、農大メールシステム、アンケート回収システム)</li> <li>「アグリビジネス」「スマート農業」講座等の一般開放講座への参画</li> <li>全国農業大学校協議会主催の指導力向上研修会への参加</li> </ul> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知事部局の品目毎の技術員会や技術調整会議への参画</li> <li>校外で実施される技術向上研修会等の情報収集と共有、周知</li> <li>高校等と連携したプロジェクトの実施</li> <li>県内外の先進的な取組・技術の調査研修の実施</li> <li>九州地区農業大学校協議会の部門別研修会への参画</li> </ul>			目標	<p>【教務学生課】</p> <p>①授業力及び学生指導力の向上</p> <p>②担当分野の専門知識の習得及び専門指導力の向上</p>
				成果	<p>【教務学生課】</p> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農大メールシステム使用法の研修を実施することで職員がメールを出すことができるようになり、適宜発信することで必要な情報提供ができるようになった。併せて学生等へのアンケートにGOOGLE FORMを用い、アンケート回収が短期間でできるようになり業務改善につながった。</li> <li>ZOOMと契約し時間制限がなくなり、遠隔授業やオンライン会議を実施した。現在、学生用タブレットの導入と校内LANを整備中であり次年度よりITを活用やオンラインでの授業が可能になる。</li> <li>本年度、ドローン教官資格を2名の職員が取得した。</li> </ul> <p>【農学科】</p> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知事部局の研修会等への参画により最新情報、技術を習得し職員の指導力が向上した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 土壌・病害虫研修会(7/9) 2) 果樹調査研究会(9/14)</li> </ul> </li> <li>野菜専攻と高鍋農業と連携しプロジェクトに取り組み、職員間の連携強化、情報共有が進んだ。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ1「焼酎粕固形肥料施用によるメロンの土壌病害虫抑制対策と品質向上について」</li> <li>テーマ2「微生物資材施用による土壌病害虫抑制対策と品質向上について」(大玉トマト、ミニトマト、イチゴ、メロン、スイカ)</li> </ul> </li> </ul> <p>【畜産学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産技術研修、GAP研修等オンライン研修に積極的に参加を行い、技術の習得に努めた。</li> <li>「肥育牛飼養環境の改善、良質堆肥の生産」について農業高校と連携して取り組んでいる。</li> <li>九州部門別研修会、県外研修会などについては、新型コロナウイルスのため中止となった。</li> </ul> <p>【フードビジネス専攻】</p> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品表示検定、食品安全検定、POP検定を受検し、食品表示等に関する基礎知識を習得し授業で活用した。(職員2名)</li> </ul>	[A]	[A]	取組	<p>①・②共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学生による授業評価」による授業実態の把握と改善</li> <li>宮崎県高等学校農業教育研究会への参画</li> </ul> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導力向上研修会の開催(年2回)</li> <li>職員のドローンインストラクター研修(2名)、候補者育成(2名)の実施</li> <li>「アグリビジネス」「スマート農業」講座等の一般開放講座への参画</li> <li>全国農業大学校協議会主催の指導力向上研修会への参加</li> </ul> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品目毎技術員会や技術調整会議、各種研修会への参画による指導力向上</li> <li>高校等と連携したプロジェクトの実施</li> <li>県内外の先進的な取組・技術の調査研修の実施</li> <li>九州地区農業大学校協議会の部門別研修会への参画</li> </ul>

評価項目	担当	令和3年度の目標	令和3年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応		令和3年度評価		令和4年度目標達成のための取組 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部		
教育の質の向上 質の向上	農学科 畜産学科 プロジェクト学習	【農学科】【畜産学科】共通 ①地域課題を踏まえたプロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上 ③課題解決能力の向上による優れた農業経営者等の育成	取組	【農学科】【畜産学科】共通 ①・②・③共通 ・学科や農業高校、各関係機関と連携した地域連携型プロジェクト学習の実施 ・チャレンジファームの活用や関連企業等との連携による課題解決に向けた取組の実施 ・中間プロジェクト発表会等を活用した課題解決に向けた助言の実施	【A】	【A】	目標	【農学科】【畜産学科】共通 ①高大、産学官や地域との連携を踏まえたプロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上 ③課題解決能力の向上による優れた農業経営者等の育成
			成果	【農学科】 ①・②・③共通 ・畜産学科と連携し飼料米の栽培に取組み、畜産学科学生が校内プロジェクト発表大会で飼料米給与試験について発表した。(作物専攻) ・総合農試との連携、情報収集に取り組み、1年生のプロジェクト指導の参考となった。(作物、野菜専攻) ・高鍋農業高校と連携し、●「焼酎粕固形肥料施用によるメロンの土壌病害虫抑制対策と品質向上について」及び●「微生物資材施用による土壌病害虫抑制対策と品質向上について」(大玉トマト、ミニトマト、イチゴ、メロン、スイカ)のプロジェクト2課題に取り組んだ。 ・企業との連携では、 ○チャレンジファーム活用経営体との連携。 ○関連企業との連携では、焼酎粕固形肥料を利用したメロン栽培、加温効果が期待される蓄熱版を用いたイチゴ栽培に取り組んでいる。(野菜専攻) ・中間プロジェクト発表会を実施し資料とりまとめや課題解決に向けた助言を行い、12月の学科内プロジェクト発表でわかりやすいプレゼン資料にまとめた。その結果校内プロジェクト発表大会及び九州地区農大プロジェクト発表大会で最優秀賞を受賞。全国大会に出場し、特別賞を受賞した。(野菜専攻) 【畜産学科】 ①・②・③共通 ・農学科や関連企業等と連携したプロジェクト(6課題)について、学生自らが課題解決に向けた取組を実施した。 ・例年7月に実施する中間発表会は、新型コロナウイルスの影響で開催することはできなかったが、日頃からの担任の指導や学科発表会(12月)において、助言を実施し、課題解決に向けた問題点を把握することができた。 ・プロジェクト「肥育牛飼養環境の改善、良質堆肥の生産」について農業高校と連携して取り組んでいる。			取組	【農学科】【畜産学科】共通 ①・②・③共通 ・学科や農業高校、各関係機関と連携した地域連携型プロジェクト学習の実施 ・チャレンジファームの活用や関連企業等との連携による課題解決に向けた取組の実施 ・中間プロジェクト発表会等を活用した課題解決に向けた助言の実施 ・チャレンジファーム活用経営体との連携によるスマート農業の実践 ・高鍋農業高校との連携による教育の充実
教育の質の向上 質の向上	フードビジネス専攻	①高大連携プロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上	取組	①・②共通 ・農業高校や南九州大学、及び各関係機関や企業と連携したプロジェクト学習 ・学生出資会社の運営を通じたプロジェクト活動の実践	【A】	【A】	目標	①高大連携プロジェクト活動の実践 ②自ら課題を発見し、解決できる能力の向上
			成果	①について ・延岡学園高等学校と連携し商品開発した「ビーツドレッシング」の赤色素の退色の課題解決のためのプロジェクトに取り組み(2年生1名)、今後のビーツ活用による商品開発のポイントの整理につながった。また、高鍋農業高校食品化学科と連携し、肉、乳、マンゴーを原材料とした商品開発に向けた研修を計4回行い、相互にプロジェクト活動を実践し、また農大祭での販売につながった。 ②について ・学生出資会社での売上向上について学習活動と結びつけることで、学生が自ら課題を発見し、農業大学校で生産される農畜産物を使った商品開発をテーマにプロジェクト活動に取り組み、課題を解決する能力を高めることができた。			取組	①について ・高鍋農業高校食品科学科、フードビジネス科の学生と連携し、先端食品加工機器を利用した商品開発に向けた研究の実施 ・南九州大学食品開発科学科と連携し、宮崎県内産農産物を活用した商品開発の研究の実施(☆) ②について ・プロジェクト活動において農大産の農畜産物を原料とした商品開発に取り組み、農大市やイベント等で販売を実施(☆) ・原材料となる農畜産物の生産工程、現場における実習も併せて行うことでの総合的な学習を実施。 ・農大市など販売の機会を活かした学生出資会社の売上向上に係る学習活動を強化(☆)



評価項目	担当	令和3年度の目標	令和3年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼称		令和3年度評価		令和4年度目標達成のための取組 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)	
			内部	外部	内部	外部	内部	外部
教育の質の向上	教務学生課	①学生の自治能力の向上及び規範意識の向上 ②学校と後援会(保護者)とのネットワーク強化	取組	①・②共通 ・メールシステムやSNSによる学校活動の情報提供を図るとともに、学生の成績や生活態度(寮反則点数)を定期的に保護者に通知することで学生の取組状況を共有し、保護者が学生を安心して預けられる環境を整備する。	【A】	【A】	目標	①学生の自治能力の向上及び規範意識の向上 ②学校と後援会(保護者)とのネットワーク強化
			成果	①について ・反則点を学生に周知した。周知することで、学生の寮の使用法の改善が見られた。 ・学生の車の許可の方法を変更し、学内に駐車する際は駐車カードを掲示しなければならないようにした。この改善により、学生の駐車に対するルールを守る意識が高まった。 ②について ・コロナ禍ということもあり、保護者を参集できない状況にある中で、メールシステムや、アンケート回収システムを利用することで、保護者との連携を図ることができた。 ・SNSやホームページを頻りに更新することで、学校の様子をわかるように努めた。 ・学籍番号と連携させることで、アンケートの収集や、意見聴取が容易になり、職員の業務改善に繋がった。			取組	①について ・教務学生課と自治会担当者間の行事運営の連携による自治会活動の活性化。 ・自治会指導体制の見直しによる自治会活動の活性化 ②について ・コロナ禍でも途切れないメールシステムを活用した情報提供、アンケート回収等による後援会と連携の充実
	農学科	①農場長と各専攻部長を中心とした農場運営の充実、「ひなたGAP」及び「ASIAGAP」実践の徹底	取組	【農学科】 ①について ・2年生から1年生への円滑な農場運営の引継ぎ支援 ・【GAP演習】【農業生産工程管理】の講義開催や農場でのGAP取組の徹底 ・各GAPのマニュアルや基準書の自己点検、外部講師の評価・改善指導実施	【A】	【A】	目標	農場長と各専攻部長を中心とした農場運営の充実、「ひなたGAP」及び「ASIAGAP」実践の徹底
			成果	①について ・農場運営については、2年生から1年生へ、各役員個別に引き継ぎを実施した。 ・1、2年生に【GAP演習】【農業生産工程管理】の講義を実施し、GAPの基本を理解に努めた。また、ひなたGAP及びASIAGAP基準書や農場マニュアルの自己点検に取組むことにより、GAPへの意識高まり、留意事項の遵守、安全な農作業の取組が徹底した。 ・ひなたGAPとASIAGAPの自己点検、更新審査受検による審査員からの改善事項については、学生・職員一緒に改善を行い、GAPの実践につなげた。			取組	・2年生から1年生への円滑な農場運営の引き継ぎ支援 ・【GAP演習】【農業生産工程管理】の講義開催 ・各GAPのマニュアルや基準書の自己点検、外部講師の評価・改善指導実施 ・環境整備部(学生)の環境美化活動を活用した棚卸の実施
	畜産学科	①GAPの認証取得とGAPの取り組み実践による学業、農場、生活指導の徹底	取組	【畜産学科】 ①について ・2年生から1年生への円滑な農場運営の引継ぎ支援 ・講義や校外学習、実習によるGAPの取り組み指導及び取り組み徹底	【A】	【A】	目標	GAPの認証取得とGAPの取組実践による学業、農業、生活指導の徹底
			成果	①について ・講義や校外学習におけるGAPの理解醸成を行うとともに、専攻決定後の専攻実習等においてGAPに基づく各専攻のマニュアルを活用し、スムーズな農場運営の引き継ぎが行われた。2年生が主体的に引き継ぐ姿勢が見られた。 ・その結果、農場のルールやリスク回避等の遵守の取組が進んだ。今後更に遵守の徹底を図る必要がある。			取組	・2年生から1年生への円滑な農場運営の引き継ぎ支援 ・講義や校外学習、実習によるGAPの取り組み指導及び取り組み徹底
進路指導	資格取得	①各種資格取得による実践力の向上 ②新たな資格取得環境の整備	取組	①について ・進路別に取得すべき資格の明確化 ・資格取得を支援するカリキュラム・授業内容の見直し ②について ・本校での農業散布用ドローン操縦資格取得環境の整備	【A】	【A】	目標	①各種資格取得による実践力の向上 ②新たな資格取得環境の整備
			成果	①について ・取得した資格を掲示し、見える化を図ったことで、学生の資格取得に対する意識が高まった。また、外部から来られる方に、本校の取組を理解していただく事ができた。 ②について ・今年度から、農業散布用ドローンの教習施設としての運用を開始し、4名の学生が資格取得した。 ・来年度から希望者が全員取得できるように、R4カリキュラムに「ドローン演習」を加えるなど体制を整えた。			取組	①について ・資格取得の情報の一元管理と成果の広報への活用による学生の意欲の喚起と来校者への周知。 ②について ・今年度始まったドローンのカリキュラムを実施し、資格取得希望学生全員に資格を取得できる体制の構築。

評価項目	担当	令和3年度の目標	令和3年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応	令和3年度評価		令和4年度目標達成のための取組 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)
				内部	外部	
進路指導	資格取得	各学科共通 ①農業経営及び農業法人や関連企業への就職に必要な資格取得の推進 ②6次産業化や食品関連企業への就職を見据えた資格取得の推進	【農学科】 ①・②共通 ・安心安全メール、校内掲示板、講義等における情報提供 ・受験手続き支援 ・資格取得に向けた講義【資格取得対策】(1年生)、時間外での勉強会開催による資格取得支援 ・危険物取扱者(乙4種)・毒物劇物取扱者 ・フラワー装飾技能士(技能五輪全国大会への参加)・グリーンマスター ・土壤医3級(土づくりアドバイザー)・日本農業技術検定3級、2級 ②について ・食品安全検定・食品衛生責任者養成研修・食品表示検定 ・POP広告クリエイター検定、フードアナリスト4級 【畜産学科】 ①・②共通 ・安心安全メール、校内掲示板、講義等における情報提供 ・受験手続き支援 ・資格取得に向けた講義、実習及び時間外での勉強会開催による資格取得支援 ・家畜人工授精師、家畜体内受精卵移植師、2級削蹄師、家畜商、車両系建設機械、フォークリフト ②について 農学科と同じ			【農学科】【畜産学科】共通 ①農業経営及び農業法人や関連企業への就職に必要な資格取得の推進 ②6次産業化や食品関連企業への就職を見据えた資格取得の推進
			【農学科】 ①について ・1年生を対象に講義【資格取得対策】を実施するとともに放課後に勉強会を開催し、資格取得を学科職員が支援した。また、安心安全メールを活用し受験案内、手続きなど情報提供を随時行った。 ・フラワー装飾技能士は、外部講師を依頼し講習会を開催した。 ○危険物取扱者乙4類(45名受験 3名合格) ○毒物劇物取扱者(2名受験 1名合格) ○土壤医検定(3級16名 2級1名 受験 結果は3月下旬発表) ○日本農業技術検定(7月3級12名受験 7名合格、2級27名受験 合格なし) (12月3級7名受験 4名合格、2級28名受験 1名合格) ○フラワー装飾技能士(3級4名全員合格、2級4名全員合格) ○12月に開催された技能五輪全国大会(フラワー装飾部門)に昨年度に引き続き花専攻2年生2名が本県代表として参加するなど技術が評価されている。 【畜産学科】 ①について ・情報提供、試験手続き、講義等における資格取得試験対策を行った結果以下の資格を取得することができた。 ・家畜人工授精師:15名、家畜体内受精卵移植師:7名、家畜商:4名、2級牛削蹄師(14名)、車両系建設機械:28名、フォークリフト:10名 ・日本農業技術検定(7月3級11名受験 6名合格 2級4名受験 合格なし) (12月3級5名受験 3名合格 2級8名受験 3名合格) 【フードビジネス専攻】 ①、②について ・食品衛生責任者については、10月に1年生8/9名が取得したことで、衛生管理能力の向上が図られた。 ・食品表示検定については、1、2年生10名が受験し、3名が合格し、食品表示に関する実践力確保につながった。 ・POP広告クリエイター検定は、1年生7名、2年生1名(作物2名、野菜1名、花き1名、茶1名、フード3名)が受験し、5名が合格し、講義や実習での活躍の場が増えた。 ・フードアナリスト4級試験については、他の資格と内容の重複が多いため、今年度より受験を行わないこととした。 ・食品安全検定は、1年生9名が3月に受験予定。	[A]	[B]	【農学科】 ①・②共通 ・農業経営及び農業法人や関連企業への就職に必要な資格取得の推進 ・資格取得に向けた講義【資格取得対策】(1年生)、授業外での勉強会開催による資格取得支援 ・危険物取扱者(乙4種)、毒物劇物取扱者、フラワー装飾技能士(技能五輪全国大会への参加)、グリーンマスター 土壤医3級(土づくりアドバイザー)、日本農業技術検定3級及び2級 農業簿記3級、2級(☆) 【畜産学科】 ①・②共通 ・安心安全メール、校内掲示板、講義等における情報提供 ・受験手続き支援 ・資格取得に向けた講義、実習及び授業外での勉強会開催による資格取得支援 ・家畜人工授精師、家畜体内受精卵移植師、2級削蹄師、家畜商、車両系建設機械、フォークリフト、日本農業技術検定3級及び2級 【フードビジネス専攻】 ①・②共通 ・資格取得に向けた講義、実習及び授業外での勉強会開催による資格取得支援 ・受験手続き支援 ・食品衛生責任者、食品表示検定(初級、中級)、POP広告クリエイター検定、食品安全検定
進路指導	就農・就職対策	教務学生課 ①年内の進路確定 100% ②就農率 60%以上(令和2年度卒業生 61.5%)	①について ・ハローワークへの登録や法人マッチング会による1年次からの学生への意識付け ・インターンシップを活かした就職先開拓 ・農大メールシステムを活用した求人情報の配信(学生・保護者等) ②について ・就農コーディネーターや農業改良普及センター、農業振興公社等と連携した円滑な就農サポート ・農業次世代人材投資資金の有効活用 ・法人マッチング、就農前研修のフォローアップ			①年内の進路確定 100% ②就農者及び農業関連産業就職者(関係団体・企業・農業高校等)の進路選択率100%
			①について ・法人マッチングは49社が参加していただいた。毎年多くの企業に参加していただいている。多くの学生と話す機会があり、企業からも十分に話ができると評価していただいている。 ・進路未確定の学生が農学科5名となっている。(2月7日現在)。全員進路が決定するよう今後も支援を継続する。 ②について ・今年度は、JA等の農業団体や、農業関連産業への就職が多く、就農率は24%程度にとどまった。	[C]	[C]	①②について ・ハローワークとの連携強化。 ・就職試験に向けた学科による個人指導の充実。 ・法人マッチングの充実及び成果を活用した就職活動の推進。 ・実習助手希望者の高鍋農業高校との連携による教育実習実施。 ・就職相談会の早期申込みや学生の意識高揚を図れるような情報提供の実施。 ・就農コーディネーターや関係機関と連携した就農サポートの実施。

年度	就職			就職先					進学	未定
	就職者数	就職率	就職先数	農業者	農業者	公務員	農外企業	進学		
1	2	1	15	14	0	3	1	5		
2	4	4.8%	24	35.7%	33.3%	0.0%	7.1%	24	11.9%	
3	7	0	5	0	0	0	0	0		
4	9	46.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
計	4	9	1	20	14	0	3	1	5	
	7.0%	15.8%	1.8%	35.1%	24.6%	0.0%	5.3%	1.8%	8.8%	

評価項目	担当	令和3年度の目標	令和3年度目標達成のための取組と成果 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組) ※「目標」の番号と「取組」の番号は対応	令和3年度評価		令和4年度目標達成のための取組 (取組の☆は、新たな取組又は強化する取組)
				内部	外部	
進路指導	就農・就職対策	各学科共通 【農学科】【畜産学科】共通 ①農業に夢を持って意欲的に取り組む人材の育成 ②自主的な進路情報収集能力の育成と進路を決定するまでの個別支援及び自立支援 ③宮崎県の農業及びフードビジネス産業等を支える人材の育成	<b>取組</b> <b>【農学科】</b> ①について ・卒業後即就農希望者について就農コーディネーターと情報共有、連携し就農を支援 ・「アグリカレッジひなた」が参加する地域イベントへの積極的な参画を呼びかけ、地域との交流を促進 ②について ・進路決定に向けた個別面談の実施 ・1年次からの進路計画作成及びその計画に基づく進路指導、進路設計のサポート実施 ・インターンシップや自主企画研修などカリキュラムと連動した進路情報収集、決定支援 ・面接指導など試験対策の実施 ③について ・フードビジネス関連団体や企業と連携した講義や研修の実施 <b>【畜産学科】</b> ①について ・就農希望者、研修希望者については就農コーディネーターや農業改良普及センターと連携した進路支援 ・各種イベントへの積極的参加支援を通じた社会で必要とされる(基礎的・汎用的)能力の育成 ②について ・1年次から進路決定に向けた個別面談の実施 ・インターンシップや自主企画研修などカリキュラムと連動した進路情報収集・支援 ・面談や履歴書等試験対策の実施 ③について ・フードビジネスや関連企業と連携した新たな商品開発や販売の検討	【A】	【B】	<b>目標</b> <b>【農学科】【畜産学科】共通</b> ①農業に夢を持って意欲的に取り組む人材の育成 ②自主的な進路情報収集能力の育成と進路を決定するまでの個別支援及び自立支援 ③宮崎県の農業及びフードビジネス産業等を支える人材の育成
			<b>成果</b> <b>【農学科】</b> ①について ・就農希望者1名に対し、就農コーディネーターと情報を共有し、出身地管轄農業改良普及センターへの訪問を促し就農を支援した。 ②について ・1年生 三者面談1回(4月)、個別面談を2回実施(6月、12月)した。 ・2年生 専攻担任を中心に進路決定、就職試験に係る面接を指導するとともに、進路未定者の面談を実施した。 ○42名中 37名進路決定(2/7現在) ③について ・2年生講義「法人経営」において、先進的農業法人経営体の講義や校外学習を実施し、1名がその経営体の就職試験を受験した。 ・農大市や農大祭での接客や委託販売先(4か所)への納品出荷等を通して、学生のコミュニケーション能力や社会性の向上につながった。(農大市4回、農大祭1回、菜っ葉屋イベント2回) <b>【畜産学科】</b> ①について ・就農希望者については、就農コーディネーターと連携し、普及センター、市町村との連携作りに努めた。 ・新型コロナウイルスの影響によるイベント等の中止により、参加する機会がなかった。 ②について ・1年生へは個別面談は2回、三者面談1回を実施し、今後の専攻、進路について情報収集、指導を行うことができた。 ・校外学習等、法人マッチングも活用しながら、企業の情報収集に努めるとともに、校外学習先、法人マッチング面談先に就農する学生もあり、卒業後の進路は年内に100%決定した。 ③について ・農大祭での接客を通して、学生のコミュニケーション能力や社会性の向上につながった。(農大祭1回) <b>【フードビジネス専攻】</b> ①、③両学科共通 上記の通り ②について ・就職対策として、面接指導やエントリーシートの記入指導を行ったことで、2年生が早期に進路決定に向けて意識啓発につながり、相互に刺激あって就職活動に取り組むことができた。			<b>取組</b> <b>【農学科】</b> ①について ・卒業後即就農希望者について就農コーディネーターと情報共有、連携し就農を支援 ②について ・進路決定に向けた個別面談の実施 ・1年次からの進路計画作成及びその計画に基づく進路指導、進路設計のサポート実施 ・インターンシップや自主企画研修などカリキュラムと連動した進路情報収集、決定支援 ・面接指導など試験対策の実施 ③について ・フードビジネス関連団体や企業と連携した講義や研修の実施 <b>【畜産学科】</b> ①について ・就農希望者、研修希望者については就農コーディネーターや農業改良普及センターと連携した進路支援 ・各種イベントへの積極的参加支援を通じた社会で必要とされる(基礎的・汎用的)能力の育成 ②について ・1年次から進路決定に向けた個別面談の実施 ・インターンシップや自主企画研修などカリキュラムと連動した進路情報収集・支援 ・面談や履歴書等試験対策の実施 ③について ・フードビジネスや関連企業と連携した新たな商品開発や販売の検討